

演題「乳歯及び幼若永久歯の歯内療法に関する基礎と臨床」

九州歯科大学小児歯科学講座教授

木村光孝先生



■ 略歴

- 1966年 九州歯科大学卒業
- 1973年 九州歯科大学講師
- 1976年 同大学 助教授
- 1979年 同大学 教授
- 1988年 日本小児歯科学会九州地方会会長

■ 講演要旨

日常の小児歯科臨床にあたっては、成長・発育という大きな課題を避けて通ることはできない。

歯内療法に限ってみれば、乳歯と幼若永久歯という2本の大きな柱に分かれている。

そこで今回は、2つの柱を中心に課題を進めてみたい。

乳歯の歯内療法については、生活歯、失活歯を問わず乳歯を保存することにより、生理的に歯根吸収が出来るかぎり自然な状態でスムーズに進行し、後継永久歯と交換されなければならない。ところが、日常の臨床においては患児からの情報は信頼性に欠くことが多い。そこで適切な処置を施すためには歯内療法に関して、あらゆる診査・診断の段階より基礎的な知識を十分知っておかなければならない。このようなことから、臨床の場での症例を示し、基礎的立場から痛みと密接な関係をもつ神経線維の動態をみながら基礎に立脚した臨床を解説したい。

次に、幼若永久歯の歯内療法に関しては、生活歯では歯髄を保存することにより歯根象牙質の形成、歯根の伸長、歯髄腔の順調な狭小、根尖閉鎖がいかに行われているのか、一方、失活歯については、歯根形成の停止、その後、根尖閉鎖がスムーズに行われることが、いかに困難であるかを主体として临床上の問題点を病理組織学的あるいは細胞レベルでの判断を含めて解説してみたい。

小児歯科の臨床を行っている歯科医師は高度な技術と知識を修得されていると思われるので、単に臨床的な予後にとどまらず、その治療の根本的な内面を基礎的な研究結果をおりまぜて包括的に解説し、今後の治療に役立てていただきたいと願っている。